資料２－６
（白石委員提出資料）

論点整理のイメージについて

東洋大学　教授　白石真澄

以下は先日、頂戴した「論点整理のイメージ」（資料 8）に対するコメントです。全体的な印象として、「問題解決型」に重点がおかれ、道路によって国民生活をどうリードして行くかといった積極性が感じられない気がいたします。

第1部　社会・経済の情勢と目指すべき方向性

【成果と課題の提示】

- 「道路政策のレビュー」もいいですが、これまでの道路行政・道路整備の結果、どのような便益が国民にもたらされ、目標水準に対し、何が課題として残っているかを明示すべきだと思います。社会資本のなかで逆風が強まっている「ものいえぬ道路」に代ってきちんと説明を！
- この際に、次に述べることになる「社会・経済の情勢と目指すべき方向性」と、関連づけて課題をのべることが重要です。
- 「社会・経済の情勢と目指すべき方向性」に含まれる 5 項目は、各々（国内的課題、国民ニーズ、国際競争力など）異質なものです。この 5 つの中での優先順位はどういったものでしょうか？
- たとえばそれぞれに関連する現在の指標と目標水準をわかりやすく数値化（当然、重要項目は水準が高くなります）し、乖離が大きいものほど優先順位が高くなりますよね。
- 昨今の通学路、生活道路での事件を考慮すれば、安全・安心へのニーズも、災害だけではありませんので、今日的な課題解決についても是非、アピールされるとよろしいかと存じます。国の安全保障やテロなどの都市のリスク管理なども同様です。

【財政・予算面】

- 財政制約やストック更新の必要性が増大するなか、特定財源をはじめとする予算規模を現在のままで維持した場合、予算規模がはるかに減少した場合など、楽観的シナリオ、悲観的シナリオ、その中間で、何をどこまでやれるか、国民に示すべきだと思います。（この位置に該当する記述を置くかどうかについては要検討）⇒国民の多くが、もし、自分の身に直接、降りかかってくるリスクや不便さを意識すれば、道路に対する理解も異なってくると思います。
- 現在、約半分の国土面積に 6%の人口が住み、神奈川県、大阪府以外は過疎地域を含んでいます。都市と地方の整備水準について、どのような目標を定め、さらに予算配分をしていくのか、国の考え方を示しておくべきではないでしょうか。

第2部　今後の道路政策に求められる視点

- これまでの視点と、今後 10 年で何が変わるのかをもっと、明確に打ち出すべきだと思います。残念ながら、あまり目新しさが感じられません。
- 「利用者の視点」と記述がありますが、非常に漠然としているので、国民の具体的なニーズをどこかでレビューしておくべきだと思いますし、「利用者の視点」を重視するために現在、行われているPIや道路管理への参加の仕方をどう発展させて行くのかを、是非、第3部の各論でお書き下さい。(P6の(3)「多様なパートナーシップによる行政運営」でもあまり具体化されていません)
- 「地方分権」の流れが加速するなかで、国の権限を縮小し、利用者の視点を吸い上げやすい自治体に予算と権限を委譲することも必要ですが、国の役割をどこまでとし、具体的にどのように地方の裁量を増やして行くかについてのお考えも是非、お示しください。

【その他】

- 残間委員からもきっとご指摘があろうかと存じますが、現時点の記述がとても堅く、「ハード」先行型で、道路を使って「21 世紀の豊かで安心できる生活像」をどう実現して行くのかといったイメージが見えてこない気がします。
- 少子高齢化で住宅は余るわけですし、団塊世代の周辺を含む 1000 万人がリタイアし、「定年帰農」組は農山漁村に4日、都市に3日住むといったライフスタイルなども増えてくると思います。また、自然豊かな森の中の家に住み、国内を夫婦でドライブするといった頻度も増えてくるでしょう。(そのため、すでに軽井沢の新しい別荘や箱根周辺はミニバブルです。)
- 効率や生産性を第一に働き続けてきた人たちが、有り余る時間を手にした時に、車を使った「移動」・「余暇」に何を期待するのか、地方に住む人たちが諦めてきた課題を、どう実現するのか、是非、「夢」を感じられ、かつ、現実味を帯びた実効性ある内容にまとめてください。

以上